

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
吉岡町	明治地区①(小倉・上野田・下野田)	令和3年3月24日	令和4年12月6日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	233.15ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	129.63ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	65.05ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	46.42ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.47ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.7 ha
(備考)	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計のうち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計が、6.23ha多いが、中心経営体の高齢化が進んでいるため、新たな農地の受け手の確保が必要。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

小倉集落は、果樹(ブドウ)と甘藷の栽培が盛んであるが、認定農業者等の中心経営体が高齢化している。生産するのに、労力を要し、付加価値の高い果樹栽培や施設野菜(イチゴ)や6次元化が必要な小倉乾燥芋を加工販売しているが、規模拡大や組織化に難航しており、現状維持のための、後継者確保が必要である。また、高崎渋川バイパスが開通され、宅地開発がますます進む傾向にある。若年層や農業法人などの認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

上野田集落は、山間部は、傾斜がきつい町の農地の中では大きな畑が広がり、平野部は、傾斜のある田が広がっている。また、高崎渋川バイパスが開通され、農地開発がますます進む傾向にある。また山間部に住宅地や商業地区として開発が進む大久保地区の畜産農家が、畜舎の移設をしている。若年層や農業法人などの認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

下野田集落は、傾斜の緩い田と畑が広がっている。都市計画区域に指定されており、宅地開発がますます進む傾向にある。関越自動車道を中心に東側に平らな畑、西側に比較的平らな田が広がっている。若年層や農業法人などの認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	施設野菜	1.6 ha	施設野菜	1.6 ha	小倉集落
認農	B	肉牛+繁殖経営	5.2 ha	飼料作物	10.2 ha	上野田集落
認農法	D	肉牛専作	0.9 ha	飼料作物	1.1 ha	上野田集落・下野田集落
認農法	群馬農協チキンフーズ(株)	ブロイラー	0.1 ha	ブロイラー	0.6 ha	上野田集落
認農	渡邊利平	果樹+加工甘藷	1.2 ha	果樹+加工甘藷	1.2 ha	小倉集落
認農	佐藤康之	果樹+加工甘藷	1.8 ha	果樹+加工甘藷	2.1 ha	小倉集落
認農	I	養豚専作	3.2 ha	養豚専作	4.2 ha	小倉集落
認農法	(有)今井牧場	肉牛専作	1.3 ha	飼料作物	1.4 ha	上野田集落
認農	F	酪農・肉牛+水稲	1 ha	水稲	1 ha	上野田集落
認農法	(株)農業支援センタ	水稲、野菜	2 ha	水稲	3 ha	小倉集落・上野田集落
認就	小湊 智也	露地野菜	0.1 ha	露地野菜	0.7 ha	小倉集落
認農	J	稲作・養鶏	0.2 ha	稲作・養鶏	0.2 ha	上野田集落
計	12人		18.6 ha		27.3 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>〈農地の貸付け等の意向〉 貸付け等の意向が確認された農地は、83筆、84,571㎡となっている。農地・農家情報について、GISシステムを導入し、見える化していく。</p>
<p>〈農地中間管理機構の活用方針〉 将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。 中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。町内にとらわれず、優良な耕作者の情報を集め、又貸しや間耕作を少なくできるよう検討する。</p>
<p>〈基盤整備への取組方針〉 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、補助事業を活用する。耕作者のいない小さな圃場は、市民農園の貸出等ができるように検討する。</p>
<p>〈特産化作物の導入方針〉 小倉集落を中心に果樹(ブドウ)と乾燥芋の生産、特産加工の後継者確保に取り組む。</p>
<p>〈鳥獣被害防止対策の取組方針〉 吉岡町鳥獣被害の減少に努めるとともに、鳥獣被害を受けている町内の農業者に対して、吉岡町有害鳥獣被害対策協議会で購入した箱罾を貸出すことで、被害の減少を図る。</p>
<p>〈災害対策への取組方針〉 水害、寒乾害、高温害等の被害防止のため、圃場・水路の巡回や気象情報の確認などに取り組む。</p>